

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070201142
法人名	医療法人 正周会
事業所名	グループホーム玄海の森 東館
所在地	福岡県北九州市若松区大字有毛2933-6
自己評価作成日	平成24年4月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな環境、四季を感じられる中で、「自分らしくのんびりと、共に過ごす豊かな日々」を理念に掲げ、入居者一人ひとりの希望や、その人らしく生活が出来るよう支援し、また、入居者・ご家族が安心して、穏やかに生活を送ることができるよう努めています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周囲には、響灘に程近い豊かな自然環境が広がり、同法人グループの関連施設が近接して位置している。デイサービス事業所が併設された2階建ての生活空間は、ゆとりある広さが確保されており、リビングの大きな窓からウッドデッキへと続く、明るく、開放的なスペースが印象的である。管理者、職員は、センター方式の活用や日常の記録、ミーティング等での協議を通じて、理念とする、「自分らしさ」への支援を追究し、穏やかな日常や認知症への多面的なアプローチへと結び付けている。また、少しずつ重度化している現状を踏まえ、家族との連携も図りながら、外出や外食への個別支援を充実させ、心身の活性化や豊かな暮らしの実現に取り組んでいる。運営推進会議は全家族へ案内され、議事録や外部評価結果も家族に送付される等、開かれた事業所としての積極的な情報発信と、課題を明確にしながら、目標達成に積極的に取り組み、本質的なサービスの提供に向けた質の向上への真摯な姿勢がうかがえる。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成24年4月24日	評価結果確定日	平成24年7月30日

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、誰にでも目にする事ができるよう玄関脇に掲示し、常に意識して支援に繋げている。各職員が理念を念頭に入れ、新人職員に対しては説明し、入居者第一で考え支援するように努めている	センター方式の活用を通じて、理念の柱である入居者の方々の「自分らしさ」を追求し、ミーティングでは、業務優先ではなく、かかわりや会話を大切にした支援となるよう、職員間で確認を行っている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	日常的には交流はされていないが、祇園祭に参加、年に数回、ボランティア訪問(踊りなど)をして頂き、また、近隣施設との繋がりを持ち、行事参加など積極的な活動を行なっている	周囲には民家が少ないが、近隣の同法人施設との交流やボランティア(フラダンス・よさこい・ハーモニカ等)の方々の来訪、中学校の職場体験の受け入れ等を行っている。また、個別の地域性への視点も確保し、出身地への外出支援も行われている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で、認知症についての議題(症状など)などに取り組み、理解を深めて頂き、さまざまな情報提供を行なっている		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの実際、取り組みの状況など報告を行い、意見・疑問を議事録に明記し、会議後、検討を行い、サービス向上のため、実際に取り組み行なっている	全家族への開催案内を行い、議事録を送付している。地域住民代表として、新屋敷組合長や民生委員の方々の参加も得られるようになり、入居者、家族、地域包括支援センター職員、同法人施設職員等のメンバー構成にて定期開催されている。現状の報告や、災害対策等について意見交換が行われ、サービス向上につなげている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	問題・課題など生じた場合や、疑問などは電話などで連絡を取り、指導・助言をお願いするなど協力を得ている。また、運営推進会議には包括支援センター職員に参加して頂いている	運営推進会議には、地域包括支援センター職員の参加を得ている。また、若松地域密着型ネットワークの活動を通じて、行政担当者との情報共有や連携を図っている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部・内部研修を年に数回実施し、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。また、身体拘束に関するマニュアルあり、見直し行なっている	入居時に、身体拘束をしないケアについて方針を説明し、家族との共有認識を図りながら、内外の研修参加やカンファレンス等にて、言葉遣いや対応についても意識を高めている。日中は、玄関やユニット入口の施錠は行っていない。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部・内部研修を実施。日々の業務の中で、職員同士随時確認している。また、ミーティングなどで、指導・話し合いを行なっている		

福岡県 グループホーム 玄海の森

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市町村窓口にある資料の閲覧、パンフレットなどで情報を共有している。また、入居者・家族に、ご案内・説明ができるよう、資料・パンフレットを揃えている	現在、権利擁護に関する制度を活用している方もおり、支援の過程を通じて理解を深め、また、資料の整備や、運営推進会議の中で取り上げる等の情報発信を行っている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時(解除時)には十分な時間を頂き、重要事項や契約に関する事項を一つひとつ文言を口頭説明行い、不安・疑問点については、その都度説明し、理解・納得を頂いている		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	匿名で意見ができるよう玄関ホールにご意見箱を設置(意見なし)気軽に声かけて頂けるよう関係作りに取り組み、会話の中より意見を伺い、また、苦情・困りごとなどないかお尋ねしている	ホームの行事には家族の参加を呼びかけ、また、毎月の支払日等、来訪する機会も多く、意見や要望の収集に努めている。運営推進会議の開催を全家族に案内し、議事録や外部評価結果についても家族に送付し、情報の共有に努めている。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回ミーティングを行い、情報交換・意見・提案など話し合う機会を設け、情報を共有しサービス行なっている。また、管理者は常時、職員の意見を聞き、職務に反映させている	毎月、ユニットごとにミーティングを行い、職員意見を収集している。また、日常の中でも、その都度、業務改善等の検討が行われ反映させている。個人面談も、随時行われている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	資格取得のための休暇や、改善が図れる部分については出来る限り対応し、働きがい、向上心が持てる職場環境・条件作りに努めている		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用にあたっては、性別・年齢不問としている。職員個人の能力が活かすことができるよう、月替わりの担当者を決め、行事企画を携わってもらったり、資格取得・研修についても、職員の希望、能力向上のため参加を促している	法人としての採用となり、年齢や性別による排除は行われていない。基本的に常勤での採用となり、外部研修参加機会の確保やサポート、また、産休・育休の取得や職場復帰に向けた配慮等、スキルアップや働きやすい職場環境作りに積極的に取り組んでいる。	
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部・内部研修行い、マニュアルに関しては、いつでも閲覧可能。定期的に見直し行なっている。啓発活動(地域の方に向けて)は、今年秋に他施設と共同で行なう予定としている	行政の主催する外部研修への参加をはじめ、様々な視点での内外の研修の機会を確保し、職員の意識を高めながら、人権教育、啓発に取り組んでいる。	

福岡県 グループホーム 玄海の森

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	適宜、個人面談を行ったり、勤務年数や、経験に合わせての外部研修への参加。疑問・不安点などは、その都度対応し、助言・指導行なっている		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス事業者とのネットワーク活動を年4回以上開催し、課題の検討会・意見交換などを行なっている(若松TMネット参加)		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ゆっくり会話できる環境・時間を設け、簡単な質問にて、ご本人の不安・困っていることを引き出すことが出来るよう努め、少しずつコミュニケーションを図っていく		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	常に傾聴の姿勢を心がけ、困っていること、不安・疑問など表出できるよう環境を整え、関係づくりに努めている		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接により、ご本人・ご家族が必要としている、また、必要であろうと考えられるサービスを状況・会話より見極めサービスの紹介を行ったり、アドバイスを行なうよう心がけている		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者本意の生活を第一に考え、コミュニケーションを大切に、談話や触れ合いを行なう中より、どのような暮らし、生活を望まれているかを考慮し、共に過ごす時間を大切にしている		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	情報の共有を心がけ、面会の際など、ご本人の心身状態や日頃の様子などについて話し合い、また、相談しやすい雰囲気を作り、信頼関係を築いている		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人希望により外出し、馴染みの人がいる施設などに訪問している。また、外部の方からの訪問なども受け入れている	併設するデイサービス事業所やケアハウスから入居となるケースもあり、顔馴染みの方に会いに訪問している。家族の協力も得ながら、墓参りやお見舞い等にも出かけている。編み物等の趣味活動の継続も支援している。	

福岡県 グループホーム 玄海の森

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション・行事などに参加して頂き、利用者同士が関わり合えるような環境作り、また、スタッフが橋渡し役となりコミュニケーションが円滑に行なえるように支援している		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、面会・訪問・電話連絡をし、馴染みの関係が継続できるように努め、また、経過を把握し、いつでも相談していただけるよう環境を整えている		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者と会話することにより、様々な思いや生活に対し、希望や意向把握できるよう努め、困難な場合は、普段の言動・表情などより感じ、取り入れるよう努め検討している	家族の協力や、各担当者の意見を集約しながら、センター方式を活用した情報収集を行っており、詳細な記載内容と、半年毎の更新が確認できる。視点を明確にした個別の記録からは、入居者の心情の変化等、日々の状況がわかりやすく、ミーティングでの協議を通じて、思いや意向、潜在するニーズの把握に努めている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントツールとしてセンター方式を取り入れている。ご家族より情報収集をお願いし、また、日常の会話より情報を得て、職員が把握できるようにしている		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活を一緒に営むことにより、生活・能力など把握に努め、記録、アセスメントツールに記載し、客観的・総合的に現状を把握している		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、家族に意向・要望をお聞きし、ミーティングなどでも検討、振り返りを行い、多数の意見を反映させ、より良い介護計画の作成を行なっている	本人、家族の参加する担当者会議を開催し、各職員や医師の意見をもとに、介護計画を作成している。日々の実施記録や毎月のモニタリング、ミーティング等を通じて、現状の確認や見直しの必要性を検討している。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	異変・身体状況・言動・精神状態などを記録し、職員間で共有、また、日々の生活の中で適宜、見直し行なっている		

福岡県 グループホーム 玄海の森

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	様々な対応を考慮し、その時の状態・状況を把握し、支援・サービス内容を柔軟に対応できるように心がけている		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア・学生の実習の受け入れなど行い交流を図っている。また、新しい情報・資源を収集し把握・対応に努めている		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際にかかりつけ医を確認、希望・可能であれば引き続き、診察を受けられるよう支援。ホーム協力医療機関を希望される方は、付き添いサービス行い、医師へ報告・相談ある際は、情報提供書をお持ち頂いたり適切な支援をしている	入居時に、本人、家族の希望するかかりつけ医について確認を行っている。受診前後の連絡や、毎月の手書きの通信にも健康状態や受診状況を記載し、家族との情報共有を図っている。週1回、歯科の往診がある。	かかりつけ医や協力医療機関との密な連携を図りながら、本人、家族の安心につながるよう、適切な医療受診を支援している。少しずつ重度化していく中で、往診体制の確立等、医療連携体制の再構築についても検討して下さい。
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ病院・関連施設の看護師とコミュニケーションは取れており、受診・急変時に、気軽に相談・疑問など会話できる関係を築いている		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり	入院時は、ご本人・家族の同意を得て情報提供を行っている。また、定期的に電話・面会に伺い、病状の経過など情報交換常に行なっている。		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	可能な限りホームでの生活が継続できるように考えているが、明確な基準、方針は定めていない。容態悪化時の対応、受け入れ医療機関との連携は取れている。現状では、医療行為必要な方は、病院にて入院頂いている	入居時に、重度化や終末期に向けた事業所としての方針を説明している。また、日常の会話やセンター方式への記載を通じて、本人、家族の意向の把握に努めている。状況の変化に伴い、医師や家族との話し合いを重ねながら、法人内の連携も含めた対応方針を共有している。終末期医療・ターミナルケアについての外部研修に参加している。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・事故時のマニュアルあり(定期的に見直し)個人の現在の心身状況を常に情報交換し、急変に備えている		

福岡県 グループホーム 玄海の森

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時マニュアルあり。年2回、地域消防署・設備点検会社の協力を得て実地訓練を実施。内部研修・ミーティングでも話し合いを行い、周知徹底している	年2回、併設されるデイサービスとの合同訓練が行われている。夜間帯や水害を想定した訓練も実施され、入居者も参加している。運営推進会議には地域消防団の方の参加も得ており、議題としても取り上げながら、連携に向けた働きかけを行っている。緊急連絡網の確認や、訓練後の課題検討も行われている。	
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護に関する、外部・内部研修行なっている。常に言葉使い・動作に気をつけ、職員同士確認し合っている。また、入浴・排泄の介助の際は羞恥心などに配慮した対応を心がけている	行政の主催する研修への参加や、内部研修のテーマとしても、様々な視点から人格の尊重やプライバシーの確保について取り上げ、職員の意識を深めている。羞恥心やプライドへの配慮、その都度の意向確認を心がけながら、支援を行っている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定困難な方については、簡潔な説明、選択肢を簡単にするなど、返答可能な質問により引き出せるよう努めている。また、利用者の気持ちに副えることができるよう働きかけている		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望汲み取れるように心がけ、画一的な支援ではなく、一人ひとりの生活ペースを大事にし、柔軟な対応を行なっている		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回程度、訪問美容をお願いしている。その際、希望お聞きし、カット・パーマ・カラーをお願いしている。また、衣類については、家族にお願いし、ご本人の好みに合ったものを持参をお願いしている		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お誕生日やイベント時は、一人ひとりの好みや希望に合わせて食事・おやつ作りを一緒に作っている。また、準備・片付けは、できる範囲でのお手伝いをお願いしている	昼・夕食は、法人施設厨房での調理が基本となり、個々のペースにあわせながら、食後の余韻も楽しんでいる。毎月1回、買い物や献立作りをともに、食事作りの日を設けたり、個別に外食に出かけることもあり、「食」のプロセスを楽しむ機会や、普段とは違う雰囲気の中で、職員とともに食事を楽しんでいる。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせた量、また同意を得て、食事形態にて提供。摂取量・水分量を随時チェック、また、嗜好も観察を行い、記録し、日々の支援の目安としている		

福岡県 グループホーム 玄海の森

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア実施。うがいには、緑茶にて行い、飲み込みにも対応。うがい困難な方に対しては、歯磨き粉使用せず。週1回、歯科往診にて、治療・予防・相談お願いしている		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎回、排尿チェック表記入行い、一人ひとりのパターンを把握し、声かけ促し・介助により、トイレでの排泄、出きる限り失禁・不快感の少ない生活を送って頂いている	排泄チェック表を用い、状況やパターンの把握に努めながら、個別のニーズに対応し、トイレ誘導や排泄の自立に向けた支援を行っている。また、水分摂取量のチェックや、オリゴ糖・牛乳・りんごジュース・乳酸菌飲料等を用意し、個別に選択しながら、便秘予防に取り組んでいる。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を利用し、排便パターンを把握。また、かかりつけ医同意のもと下剤の調節行い、過剰な下剤の投与を避けている。また、体操・歩行など運動を行なって頂く、適量の水分補給など、なるべく下剤に頼らない対策を行なっている		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯はほぼ決定しているが、状態・体調・気分など考慮し、柔軟な対応行なっている。また、介助困難な方に対しては2人介助を行なうことにより、安全に入浴して頂いている	基本的な入浴スケジュールは設定しているが、希望や状況にあわせた柔軟な支援に努めている。希望があれば、好みのシャンプーやソープの使用にも対応している。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や、夜間の睡眠状態、活動内容など考慮し支援行なっている。また、状態把握行い、夜間睡眠の妨げにならない範囲で、休息して頂いている。日中の活動を促すことにより、安眠できるよう支援している		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋は介護記録とともにファイルし、すぐに確認できるよう管理している。効能・用量は常に確認し服薬介助行なう、また、副作用についても周知徹底している		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合った活動をスタッフと共に行なったり、お手伝いをお願いしている。また、散歩・外食・買い物ドライブなどを行うことにより、気分転換を図っている		



福岡県 グループホーム 玄海の森

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調・天候・気候などに考慮し外出している。散歩や買い物・外食は一人ひとりの希望を聞き出し、副えるよう努めている。また、お墓参りや自宅への帰省は家族協力して頂き、ホームより車椅子の貸し出しなど側面より支援している	ウッドデッキでの外気浴や、海岸沿いの散策に出かけている。少しずつ重度化していく中ではあるが、個別の対応を行い、外食に出かける等の支援も行われている。家族の協力も得ながら、お墓参りやお見舞いにも出かけている。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理については、ご本人・ご家族同意のもと、金庫にてお預かりしている。また、月初めに請求書と出納帳同封している。外出時、使用時は職員介助のもと、お支払お願いしている		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望ある際は、電話したり、あった際は取り次ぎをスムーズに行なうことで支援している。また、季節に応じ、お手紙(暑中見舞い・年賀状)をお出ししている		
54	(22)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適に過ごして頂くため、遮光を調節したり、テレビ・音楽の大きさは音量を配慮している。居間には、毎月、壁面を付け替えたり、季節の花を飾るなど季節感が感じられるよう工夫している	玄関から各ユニットにつながるホールが設けられ、リビングもゆとりある広さが確保される等、共用空間は、全体的に明るく、開放感がある。ソファや和室スペースが設置され、くつろぎの場所が確保されている。プランターで花を育てたり、飾り付けも季節感を感じられるよう工夫されている。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースには、ソファや和室があり、お好きな場所で生活して頂けており、利用者間にトラブルあった際は、スタッフ介入し橋渡し役し、居心地のよい環境の提供に努めている		
56	(23)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族より、ご本人が以前より使用していたもの、使い慣れたものを使用して頂き、その他は本人の好みの物をご持参お願いしている。(ペット・カーテン・照明器具・タンスは備え付け)	各居室は開口部も大きくとられ、明るく、開放感がある。自宅より箆箆やソファが持ち込まれ、ベッドの配置等も個別の配慮が行われている。また、大切な写真や品物が飾られていたり、安心して、居心地良く過ごせるよう配慮されている。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・脱衣室・浴室・トイレは、手すり設置。全フロア(和室以外)バリアフリー。車椅子での生活の不備がないよう、廊下・トイレなども広い空間を整え、安全な環境作りに努めている		